

平成20年10月24日

各位

上場会社名 大興電子通信株式会社
 代表者 代表取締役社長 高橋 正道
 (コード番号 8023)
 問合せ先責任者 執行役員 管理本部副本部長 荻田 修
 (TEL 03-3266-8111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年6月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	19,600	△110	△100	△170	△13.64
今回発表予想(B)	19,244	△252	△254	△451	△36.20
増減額(B-A)	△356	△142	△154	△281	――
増減率(%)	△1.8	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	22,129	△226	△229	△395	△31.74

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	42,300	325	356	124	9.95
今回発表予想(B)	41,420	191	222	△62	△4.98
増減額(B-A)	△880	△134	△134	△186	――
増減率(%)	△2.1	△41.2	△37.6	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	44,791	102	102	△103	△8.32

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	19,500	△100	△100	△170	△13.64
今回発表予想(B)	19,070	△260	△262	△451	△36.20
増減額(B-A)	△430	△160	△162	△281	――
増減率(%)	△2.2	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	21,984	△217	△200	△366	△29.41

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	42,000	300	300	100	8.03
今回発表予想(B)	41,124	158	158	△113	△9.07
増減額(B-A)	△876	△142	△142	△213	――
増減率(%)	△2.1	△47.3	△47.3	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	44,463	69	75	△106	△8.55

修正の理由

1. 第2四半期累計期間の業績予想

米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機が实体经济にまで影響を及ぼし、わが国においても景気の後退が顕著と

なりました。

当業界につきましても、お客様のIT投資に対する慎重姿勢から受注が低迷しており、特に、当社の売上および利益が集中する第2四半期において、その傾向が顕著となりました。

この結果、連結受注高は184億33百万円(期初予想比 Δ 14.6%、 Δ 3,167百万円)、連結売上高は前期末受注残高の下支えもあり192億44百万円(期初予想比 Δ 1.8%、 Δ 356百万円)の見込みとなりました。

ビジネスポートフォリオの見直しにより付加価値の高いビジネスへの経営資源の集中を図り、利益率の向上を目指し取り組んでおりますが、売上高減少に加え、景気低迷の長期化懸念から利幅が縮小しました。このような中、生産性向上、諸経費削減に努めましたが、営業利益は252百万円の損失(期初予想110百万円の損失)、経常利益は254百万円の損失(期初予想100百万円の損失)見込みとなりました。

また、主として有価証券等評価損を原因とした特別損失112百万円を計上いたしました。

これらの結果、税引後の連結四半期純利益は451百万円の損失(期初予想170百万円の損失)の見込みとなります。

個別業績につきましては、主として連結業績予想を修正した影響によるものです。

2. 通期の業績予想

第3四半期以降も不安定な経営環境が続くと予想され、第2四半期の実績を鑑み通期の業績予想を下方修正いたします。

第2四半期における受注高の減少と景気後退懸念から、売上高は当初予想から880百万円減少(Δ 2.1%)し、414億20百万円に修正いたします。

営業利益は191百万円(期初予想から134百万円減、 Δ 41.2%)、経常利益は222百万円(期初予想から134百万円減、 Δ 37.6%)に修正いたします。

また、第2四半期に計上いたしました有価証券等評価損の解消も、不安定な経済環境から回復期待は薄いと考えております。

これらの結果、税引後の当期純利益は62百万円の損失(期初予想124百万円の黒字)に修正いたします。

個別業績につきましては、主として連結業績予想を修正した影響によるものです。

※上記の業績予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な不確定要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上